

## 5 ベクトルと内積

### 5.1 ベクトル

#### 5.1.1 ベクトルの和とスカラー倍

3数  $a_1, a_2, a_3$  を順序をつけて並べたものを3次元ベクトルといい,  $(a_1, a_2, a_3)$  のように書いて,  $a_1$  を第1成分,  $a_2$  を第2成分,  $a_3$  を第3成分という。2つのベクトルは対応する成分が等しいとき等しい。

普通の数をスカラーという。2つのベクトルの和と, ベクトルのスカラー倍の演算を次のように定める。

**定義 1**  $\mathbf{a} = (a_1, a_2, a_3), \mathbf{b} = (b_1, b_2, b_3)$  に対し,  $\mathbf{a} + \mathbf{b} = (a_1 + b_1, a_2 + b_2, a_3 + b_3)$   
 $\mathbf{a} = (a_1, a_2, a_3)$  に対し,  $k\mathbf{a} = (ka_1, ka_2, ka_3)$

**命題 2**  $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}$  を同じ次元のベクトルとし,  $k, l$  を数とすると,

(交換法則)	$\mathbf{a} + \mathbf{b} = \mathbf{b} + \mathbf{a}$
(結合法則)	$(\mathbf{a} + \mathbf{b}) + \mathbf{c} = \mathbf{a} + (\mathbf{b} + \mathbf{c})$
(ベクトルに関する分配の法則)	$k(\mathbf{a} + \mathbf{b}) = k\mathbf{a} + k\mathbf{b}$
(スカラーに関する分配の法則)	$(k + l)\mathbf{a} = k\mathbf{a} + l\mathbf{a}$
(スカラーに関する結合法則)	$k(l\mathbf{a}) = (kl)\mathbf{a}$

**問題 1** 上の命題を確かめよ (証明せよ)。

$\mathbf{a}$  を任意のベクトルとするとき,  $k \neq 0$  ならば,  $k\mathbf{x} = \mathbf{a}$  を満たすベクトル  $\mathbf{x}$  はただひとつ存在し,  $\mathbf{x} = \frac{1}{k}\mathbf{a}$  である。このベクトルを  $\frac{\mathbf{a}}{k}$  で表す。

#### 5.1.2 零ベクトルと逆ベクトル

各成分がすべて0であるベクトルを零ベクトルといい,  $\mathbf{0}$  で表す。任意のベクトル  $\mathbf{a}$  に対し,  $\mathbf{a} + \mathbf{0} = \mathbf{a}$  である。

$(-1)\mathbf{a}$  を  $-\mathbf{a}$  で表し,  $\mathbf{a}$  の逆ベクトルという。逆ベクトルについて,  $\mathbf{a} + (-\mathbf{a}) = \mathbf{0}$  が成立する。

$\mathbf{a} + (-\mathbf{b})$  を  $\mathbf{a} - \mathbf{b}$  で表し,  $\mathbf{a}$  と  $\mathbf{b}$  の差という。 $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  を2つのベクトルとするとき,  $\mathbf{x} + \mathbf{a} = \mathbf{b}$  を満たすベクトル  $\mathbf{x}$  はただひとつ存在し,  $\mathbf{x} = \mathbf{b} - \mathbf{a}$  である。

## 5.2 幾何ベクトル

### 5.2.1 座標ベクトル

点 P の座標が  $(a_1, a_2, a_3)$  であるとき, 座標を成分とするベクトル  $\mathbf{a} = (a_1, a_2, a_3)$  を点 P の座標ベクトルという。

以後, 座標と座標ベクトルを区別せずに用いる。

たとえば, 点 P の座標ベクトルが  $\mathbf{a}$  であることを  $P(\mathbf{a})$  で表す。

### 5.2.2 幾何ベクトル

**定義 3** 2点  $A(a_1, a_2, a_3), B(b_1, b_2, b_3)$  に対し,  $\overrightarrow{AB} = (b_1 - a_1, b_2 - a_2, b_3 - a_3)$

**問題 2** 次の命題が成立することを確かめよ。

**命題 4**

$$\begin{aligned}\overrightarrow{AB} + \overrightarrow{BC} &= \overrightarrow{AC} \\ \overrightarrow{AB} &= -\overrightarrow{BA} \\ \overrightarrow{AA} &= \mathbf{0}\end{aligned}$$

### 5.2.3 位置ベクトル

$C$  を定点とすると,  $\overrightarrow{CP}$  を ( $C$  に対する)  $P$  の位置ベクトルという。

原点  $O$  に対する点  $P$  の位置ベクトルは,  $P$  の座標ベクトルと一致する。

2点  $A, B$  の位置ベクトルをそれぞれ  $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  とすると,  $\overrightarrow{AB} = \mathbf{b} - \mathbf{a}$  である。

特に, 2点  $A, B$  の位置ベクトル  $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  について  $\mathbf{a} = \mathbf{b}$  のとき,  $A, B$  は一致する。

### 5.2.4 分点の位置ベクトルと直線のベクトル方程式

線分  $AB$  を  $m:n$  の比に分ける点を  $P$  とすると,  $\overrightarrow{AP} = \frac{m}{m+n}\overrightarrow{AB}$  だから,

$A, B, P$  の位置ベクトルをそれぞれ  $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{p}$  とすると,  $\mathbf{p} = \frac{m}{m+n}\mathbf{a} + \frac{n}{m+n}\mathbf{b}$  である。

(Note) 外分点の場合は,  $m, n$  のうちの一方を負数にする。

直線  $AB$  上の任意の点を  $P$  とすると,  $\overrightarrow{AP} = \lambda\overrightarrow{AB}$  となる実数  $\lambda$  が存在するから,  $A, B, P$  の位置ベクトルをそれぞれ  $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{p}$  とすると,  $\mathbf{p} = (1-\lambda)\mathbf{a} + \lambda\mathbf{b}$  である。

逆に, 3点  $A, B, P$  の位置ベクトル  $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{p}$  について,  $\mathbf{p} = (1-\lambda)\mathbf{a} + \lambda\mathbf{b}$  となる  $\lambda$  が存在するとき,  $\overrightarrow{AP} = \lambda\overrightarrow{AB}$  だから,  $P$  は直線  $AB$  上の点である。

### 5.2.5 1次独立なベクトル

2つのベクトル  $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  は,  $x=y=0$  の他に  $x\mathbf{a} + y\mathbf{b} = \mathbf{0}$  となる実数  $x, y$  が存在しないとき, 一次独立であるという。

相異なる3点  $A, B, C$  が同一直線上にないとき,  $\overrightarrow{AB}$  と  $\overrightarrow{AC}$  は一次独立である。なぜなら, 少なくとも一方は0でない  $x, y$  に対し  $x\overrightarrow{AB} + y\overrightarrow{AC} = \mathbf{0}$  が成立するとすると, たとえば,  $x \neq 0$  であれば  $\overrightarrow{AB} = -\frac{y}{x}\overrightarrow{AC}$  となって, 3点が一直線上にないことに反するからである。

$\mathbf{a}, \mathbf{b}$  が一次独立であれば,  $x\mathbf{a} + y\mathbf{b} = x'\mathbf{a} + y'\mathbf{b}$  となるのは  $x = x', y = y'$  の場合に限る。

**例題 5**  $\triangle ABC$  の各頂点をそれぞれ  $A(\mathbf{a}), B(\mathbf{b}), C(\mathbf{c})$  とする。辺  $AB, AC$  の中点を, それぞれ,  $M, L$ , 中線  $BL, CM$  の交点を  $P$  とするとき,  $\overrightarrow{OP}$  を求めよ。

**解.**  $BP:PL=s:(1-s)$ ,  $CP:PM=t:(1-t)$  とすると,

$$\overrightarrow{AP} = (1-s)\overrightarrow{AB} + s\overrightarrow{AL} = (1-s)\overrightarrow{AB} + \frac{1}{2}s\overrightarrow{AC}$$

$$\overrightarrow{AP} = (1-t)\overrightarrow{AC} + t\overrightarrow{AM} = \frac{1}{2}t\overrightarrow{AB} + (1-t)\overrightarrow{AC}$$

3点 A, B, C は一直線上にないから,  $1-s = \frac{1}{2}t, \frac{1}{2}s = 1-t$

よって,  $s = \frac{2}{3}$ , すなわち,  $\overrightarrow{AP} = \frac{1}{3}\overrightarrow{AB} + \frac{1}{3}\overrightarrow{AC}$

$\overrightarrow{AB} = \mathbf{b} - \mathbf{a}, \overrightarrow{AC} = \mathbf{c} - \mathbf{a}$  なので

$$\overrightarrow{OP} = \overrightarrow{OA} + \overrightarrow{AP} = \mathbf{a} + \frac{1}{3}(\mathbf{b} - \mathbf{a}) + \frac{1}{3}(\mathbf{c} - \mathbf{a}) = \frac{1}{3}(\mathbf{a} + \mathbf{b} + \mathbf{c}) \quad \square$$

三角形の3中線の交点を重心という。三角形の各頂点と重心の位置ベクトルを順に  $\mathbf{a}, \mathbf{b}, \mathbf{c}, \mathbf{g}$  とすると,  $\mathbf{g} = \frac{1}{3}(\mathbf{a} + \mathbf{b} + \mathbf{c})$  である。

**問題 3**  $\triangle ABC$  の辺 AB を 3:2 の比に内分する点を D, 辺 AC の中点を E とする。BE と CD の交点を P とするとき, CP : PD を求めよ。

**問題 4** 平面上に2点 A(2,1), B(1,3) がある。次に示す点 P に対して  $\overrightarrow{OP} = \lambda\overrightarrow{OA} + \mu\overrightarrow{OB}$  となる実数  $\lambda, \mu$  を求めよ。

- (1) P(8,9)    (2) P(-4,5)

**命題 6** 平面上に3点 O, A, B があって,  $\overrightarrow{OA} = \mathbf{a}, \overrightarrow{OB} = \mathbf{b}$  とするとき,  $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  が一次独立であれば, 平面上の任意の点 P に対し,  $\overrightarrow{OP} = \lambda\overrightarrow{OA} + \mu\overrightarrow{OB}$  となる実数  $\lambda, \mu$  がただ一通りに定まる。

### 5.2.6 平行なベクトル

傾きが等しい2直線は一致するかまたは平行であり, 逆も成り立つから, 次のことがいえる。

**命題 7** 2直線 AB, CD が一致するかまたは平行  $\Leftrightarrow \overrightarrow{AB} = k\overrightarrow{CD}$  となる0でない実数  $k$  がある。

2つのベクトル  $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  について,  $\mathbf{a} = k\mathbf{b}$  となる0でない実数  $k$  が存在するとき,  $\mathbf{a}$  と  $\mathbf{b}$  は平行であるといい,  $\mathbf{a} // \mathbf{b}$  で表す。

3点 A, B, C が同一直線上にないとき, 四角形 ABCD が平行四辺形になるための必要十分条件は,  $\overrightarrow{AB} // \overrightarrow{DC}$  である。

**問題 5** 平行四辺形 ABCD の辺 CD 上に点 P を CP:PD=1:2 となるようにとり, 対角線 CA 上に点 Q を CQ:QA=1:3 となるようにとれば, 3点 P, Q, B は1直線上にあることを証明せよ。

## 5.3 ベクトルの大きさ と 内積

### 5.3.1 ベクトルの大きさ

$\mathbf{a} = (a_1, a_2, a_3)$  に対して, その大きさ  $|\mathbf{a}|$  を  $|\mathbf{a}| = \sqrt{a_1^2 + a_2^2 + a_3^2}$  で定める。  
 $\mathbf{a} \neq \mathbf{0}$  のとき,  $\frac{\mathbf{a}}{|\mathbf{a}|}$  の大きさは1であって,  $\mathbf{a} = |\mathbf{a}| \frac{\mathbf{a}}{|\mathbf{a}|}$  が成り立つ。また, 任意のスカラー

$k$  に対し,  $|k\mathbf{a}| = |k||\mathbf{a}|$  である。

### 5.3.2 ベクトルの内積 (スカラー積)

2つのベクトル  $\mathbf{a}$ ,  $\mathbf{b}$  に対し, その内積  $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b}$  を次により定める。

**定義 8**  $\mathbf{a} = (a_1, a_2, a_3)$ ,  $\mathbf{b} = (b_1, b_2, b_3)$  に対し,  $\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = a_1b_1 + a_2b_2 + a_3b_3$

**問題 6** 次の命題が成立することを確かめよ。

**命題 9**

(1)	$\mathbf{a} \cdot \mathbf{a} =  \mathbf{a} ^2$
(2)	$\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = \mathbf{b} \cdot \mathbf{a}$
(3)	$\mathbf{a} \cdot (\mathbf{b} + \mathbf{c}) = \mathbf{a} \cdot \mathbf{b} + \mathbf{a} \cdot \mathbf{c}$ , $(\mathbf{a} + \mathbf{b}) \cdot \mathbf{c} = \mathbf{a} \cdot \mathbf{c} + \mathbf{b} \cdot \mathbf{c}$
(4)	$(k\mathbf{a}) \cdot \mathbf{b} = \mathbf{a} \cdot (k\mathbf{b}) = k(\mathbf{a} \cdot \mathbf{b})$

次の公式も成立する。

$$\begin{aligned} (\mathbf{a} + \mathbf{b}) \cdot (\mathbf{a} - \mathbf{b}) &= |\mathbf{a}|^2 - |\mathbf{b}|^2 \\ |\mathbf{a} \pm \mathbf{b}|^2 &= |\mathbf{a}|^2 \pm 2\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} + |\mathbf{b}|^2 \quad (\text{複号同順}) \\ |\mathbf{a} + \mathbf{b}|^2 + |\mathbf{a} - \mathbf{b}|^2 &= 2(|\mathbf{a}|^2 + |\mathbf{b}|^2) \end{aligned}$$

**命題 10** (シュワルツの不等式)  $-|\mathbf{a}||\mathbf{b}| \leq \mathbf{a} \cdot \mathbf{b} \leq |\mathbf{a}||\mathbf{b}|$

**問題 7** 上の命題が成り立つことを確かめよ。

[ヒント]  $\mathbf{a} = (a_1, a_2, a_3)$ ,  $\mathbf{b} = (b_1, b_2, b_3)$  と置き,  $(|\mathbf{a}||\mathbf{b}|)^2 - (\mathbf{a} \cdot \mathbf{b})^2 \geq 0$  を示す。

### 5.3.3 ベクトルのなす角

零ベクトルでない2つのベクトル  $\mathbf{a}$ ,  $\mathbf{b}$  に対し,  $\mathbf{a} = \overrightarrow{OA}$ ,  $\mathbf{b} = \overrightarrow{OB}$  となる2点 A, B をとるとき  $\angle AOB$  を  $\mathbf{a}$ ,  $\mathbf{b}$  のなす角という。

$\mathbf{a}$ ,  $\mathbf{b}$  が平行でないとき,

$\mathbf{a}$ ,  $\mathbf{b}$  のなす角を  $\theta$  とすると, 余弦定理より  $\cos \theta = \frac{OA^2 + OB^2 - AB^2}{2OA \cdot OB}$

内積の計算公式から  $OA^2 + OB^2 - AB^2 = |\mathbf{a}|^2 + |\mathbf{b}|^2 - |\mathbf{a} - \mathbf{b}|^2 = 2\mathbf{a} \cdot \mathbf{b}$  なので,  $\cos \theta = \frac{\mathbf{a} \cdot \mathbf{b}}{|\mathbf{a}||\mathbf{b}|}$

この結果は,  $\mathbf{a} // \mathbf{b}$  の場合にも正しいから次の命題が成立する。

**命題 11**  $\mathbf{a}$ ,  $\mathbf{b}$  のなす角を  $\theta$  とすると,  $\cos \theta = \frac{\mathbf{a} \cdot \mathbf{b}}{|\mathbf{a}||\mathbf{b}|}$

**命題 12** (ベクトルの垂直条件)  $\mathbf{a}$ ,  $\mathbf{b}$  がいずれも零ベクトルでないとき

$$\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = 0 \Leftrightarrow \mathbf{a}, \mathbf{b} \text{ のなす角} = 90^\circ$$

$\mathbf{a} \cdot \mathbf{b} = 0$  のとき  $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  は垂直であるといい,  $\mathbf{a} \perp \mathbf{b}$  で表す。零ベクトルは任意のベクトルと垂直と考える。

**問題 8** 4点  $O, A, B, C$  があって,  $OA \perp BC$ ,  $OB \perp CA$  ならば  $OC \perp AB$  であることを示せ。

前問は, 三角形の3垂線が1点(垂心)で交わることの証明になっている。

**問題 9**  $\triangle ABC$  の外心を  $O$  とし,  $\overrightarrow{OH} = \overrightarrow{OA} + \overrightarrow{OB} + \overrightarrow{OC}$  となる点  $H$  をとると,  $H$  は  $\triangle ABC$  の垂心であることを証明せよ。

**問題 10**  $\triangle ABC$  の外心, 垂心, 重心は1直線上にあることを証明せよ。[ヒント] 前問の結果を利用。

**問題 11**  $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  を零ベクトルでない定ベクトルとする。 $t$  を実数値をとる変数とすると,  $|\mathbf{a} + t\mathbf{b}|$  が最小となるような  $t$  の値  $t_0$  を,  $|\mathbf{a}|, |\mathbf{b}|, \mathbf{a} \cdot \mathbf{b}$  を用いて表せ。また, このとき,  $\mathbf{b}$  と  $\mathbf{a} + t_0\mathbf{b}$  は垂直であることを示せ。

[ヒント]  $|\mathbf{a} + t\mathbf{b}|^2$  を最小にする  $t$  を求める。

**問題 12**  $|\mathbf{a} + \mathbf{b}|^2 + |\mathbf{a} - \mathbf{b}|^2 = 2(|\mathbf{a}|^2 + |\mathbf{b}|^2)$  を利用して,  $\triangle ABC$  の辺  $BC$  の中点を  $M$  とするとき,  $AB^2 + AC^2 = 2(AM^2 + BM^2)$  であることを示せ。

**問題 13**  $\triangle ABC$  の辺  $BC$  上に点  $P$  があって,  $AB^2 + AC^2 = 2AP^2 + BP^2 + CP^2$  であるとき, 点  $P$  はどんな点か。

[ヒント]  $\overrightarrow{PA} = \mathbf{a}, \overrightarrow{PB} = \mathbf{b}, \overrightarrow{PC} = \mathbf{c}$  とおくと  $|\mathbf{b} - \mathbf{a}|^2 + |\mathbf{c} - \mathbf{a}|^2 = 2|\mathbf{a}|^2 + |\mathbf{b}|^2 + |\mathbf{c}|^2$ 。  
 $\mathbf{b} = m\overrightarrow{BC}, \mathbf{c} = n\overrightarrow{BC}$  とおいて,  $m + n = 0$  の場合と,  $m + n \neq 0$  の場合とに分ける。

**問題 14** 動点の位置ベクトルを  $\mathbf{p}$  で表すとき, 中心の位置ベクトルが  $\mathbf{c}$  で半径が  $r$  である円(または球面)のベクトル方程式は,  $|\mathbf{p} - \mathbf{c}|^2 = r^2$  である。2点  $A, B$  の位置ベクトルを  $\mathbf{a}, \mathbf{b}$  とするとき, 内積の計算により,  $AB$  を直径とする円(または球面)のベクトル方程式は,  $(\mathbf{p} - \mathbf{a}) \cdot (\mathbf{p} - \mathbf{b}) = 0$  であることを示せ。

[ヒント] 中心の位置ベクトルは  $\frac{\mathbf{a} + \mathbf{b}}{2}$ , 半径は  $\left| \frac{\mathbf{a} - \mathbf{b}}{2} \right|$ 。

**問題 15**  $\overrightarrow{OA} = \mathbf{a}, \overrightarrow{OB} = \mathbf{b}$  とするとき,  $\triangle OAB$  の面積  $S$  は,  $S = \frac{1}{2} \sqrt{|\mathbf{a}|^2 |\mathbf{b}|^2 - (\mathbf{a} \cdot \mathbf{b})^2}$  で与えられることを示せ。